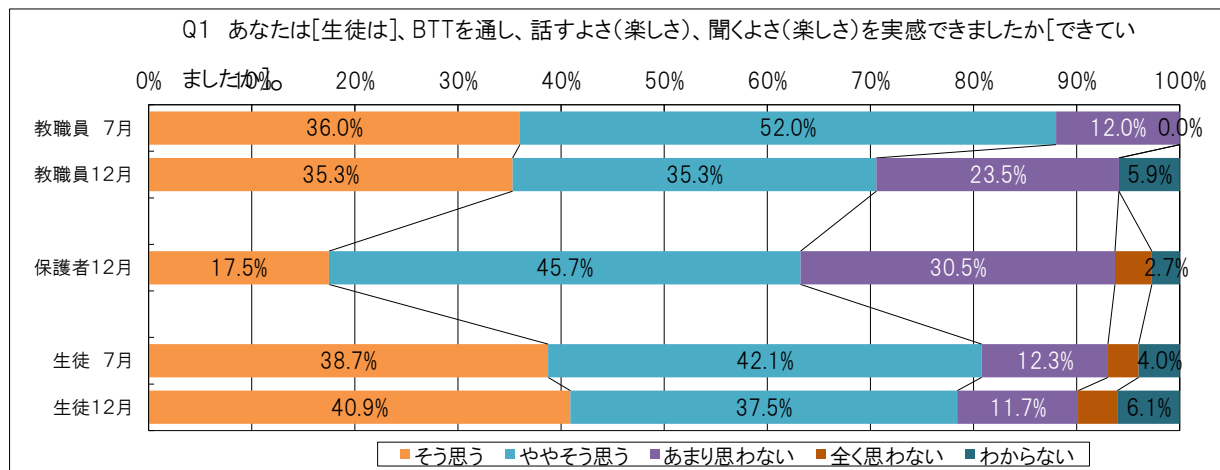


令和4年度 12月学校評価(7月との比較)について

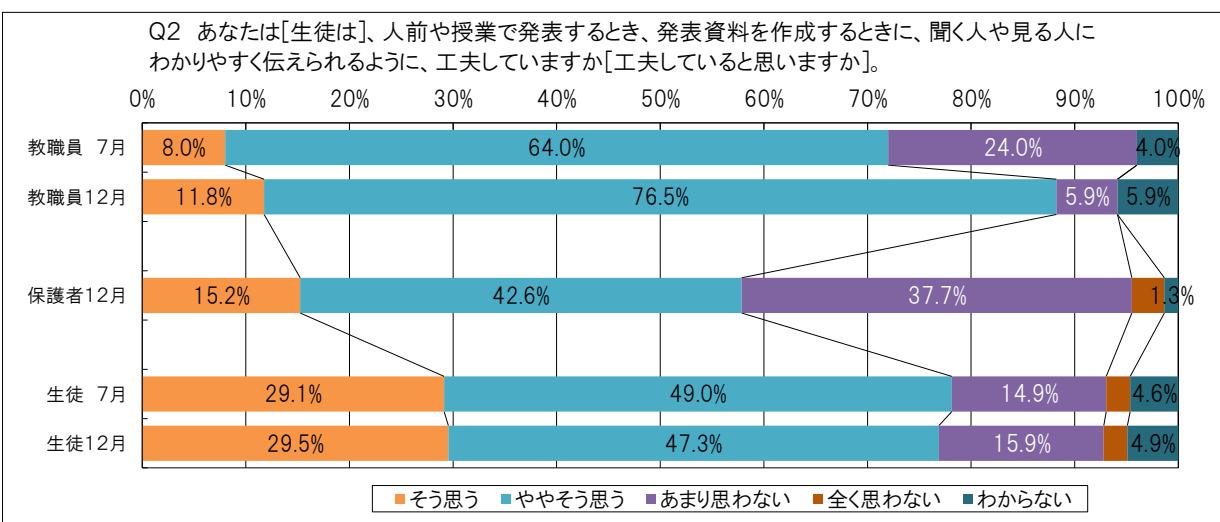
<ねらい>

○生徒がよりよい教育活動を受けられることを目指し、「学校をよりよくなる」ために、保護者、地域の方の協力により学校評価アンケートを行っています。

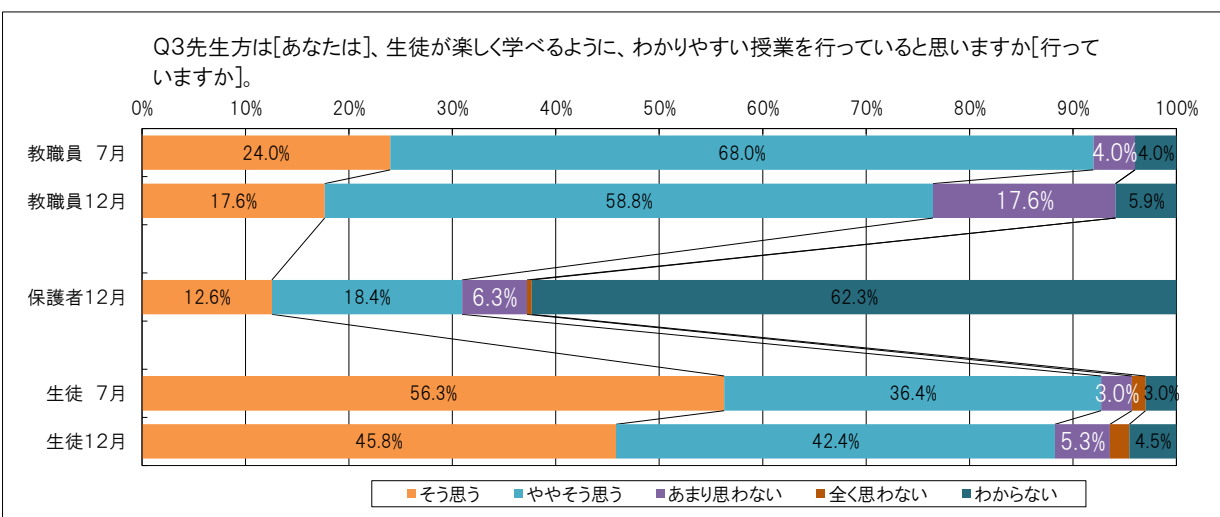
<アンケート結果>



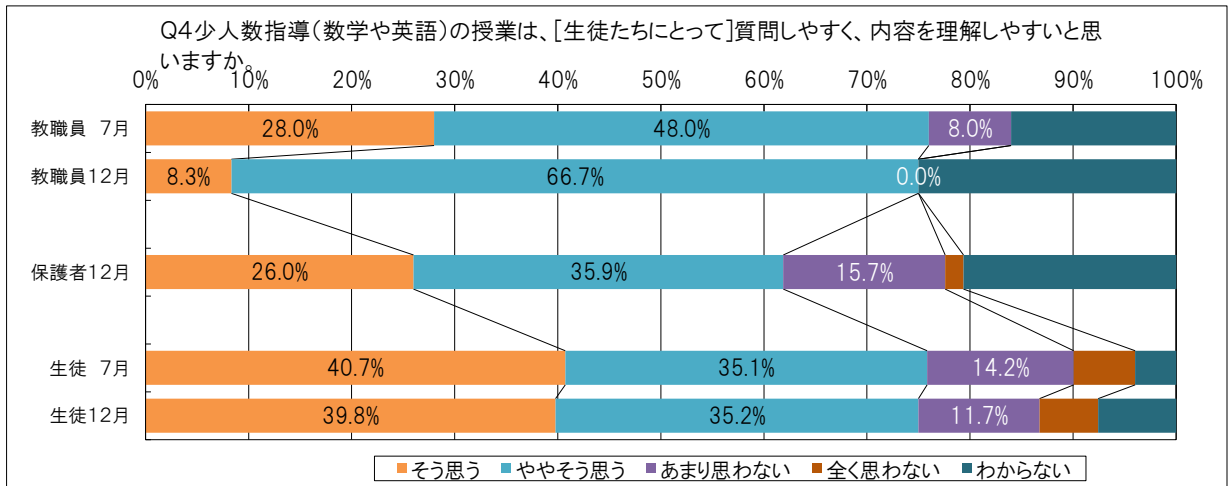
今年度のBTTは、ソーシャルスキルトレーニングなどの活動を行い、話し合いのための土台づくりを目指しました。その中で、8割の生徒がBTTを通して、話すよさ、聴くよさを実感できたようです。今後も話し合いの方法や人数の設定を変えながら話すよさ、聴くよさを感じられる活動を展開していきます。



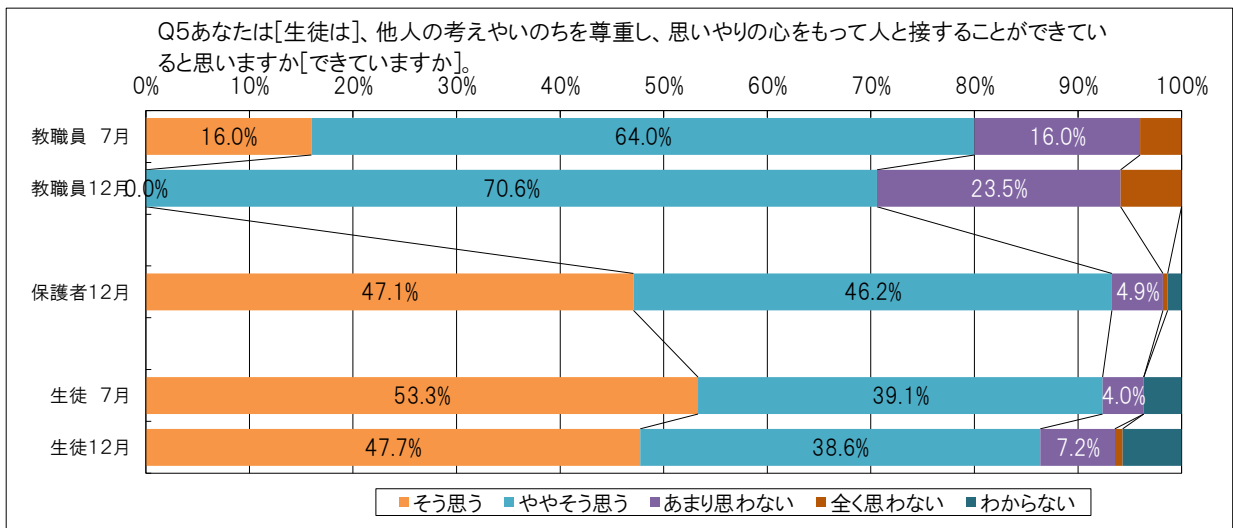
約8割の生徒がわかりやすく発表できるように工夫しているようです。今後も授業内で、自分の考えを資料提示するなどし、相手に伝わる言葉で表現するような場面を増やしていきます。



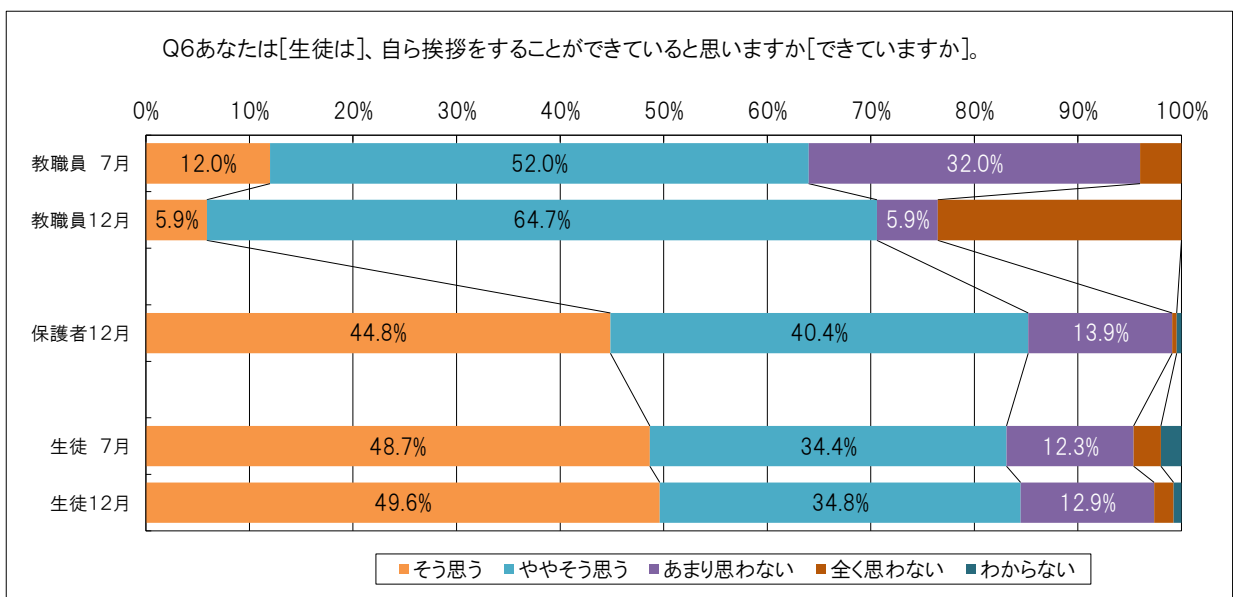
約9割の生徒がわかりやすい授業だと感じています。一方でそう思っていない生徒もいます。教師全体や教科ごとで研修を重ね、楽しくわかりやすい授業を目指していきます。



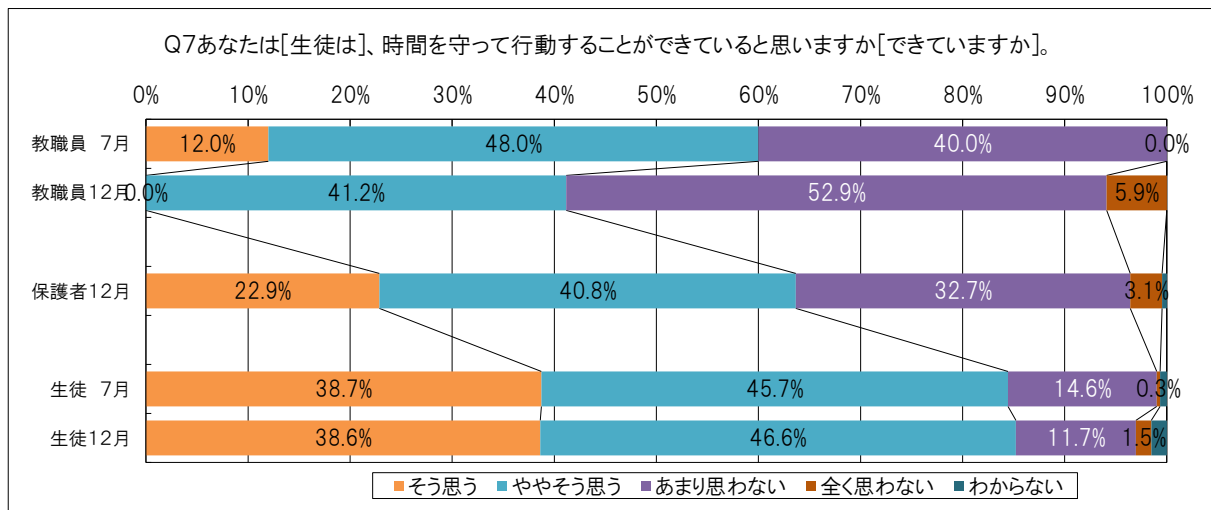
約7割の生徒が少人数での指導は質問しやすく、内容を理解しやすいと感じています。今後も、少人数のよさを生かして一人一人の理解度に応じた指導ができるように、指導方法の改善・工夫をしていきます。



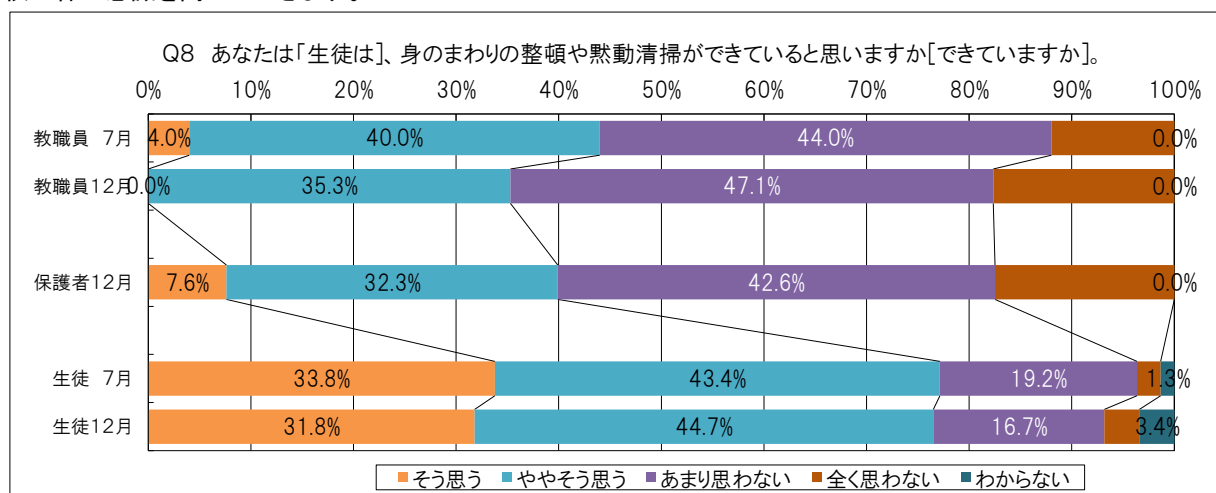
思春期は人間関係などのトラブルや悩みが増える時期でもあります。教職員は、全ての経験が成長につながっていくことを念頭に、生徒の思いに寄り添っていきます。ふだんのなにげない会話や行動でも他人の考えやいのちを尊重できるように話をしていきます。



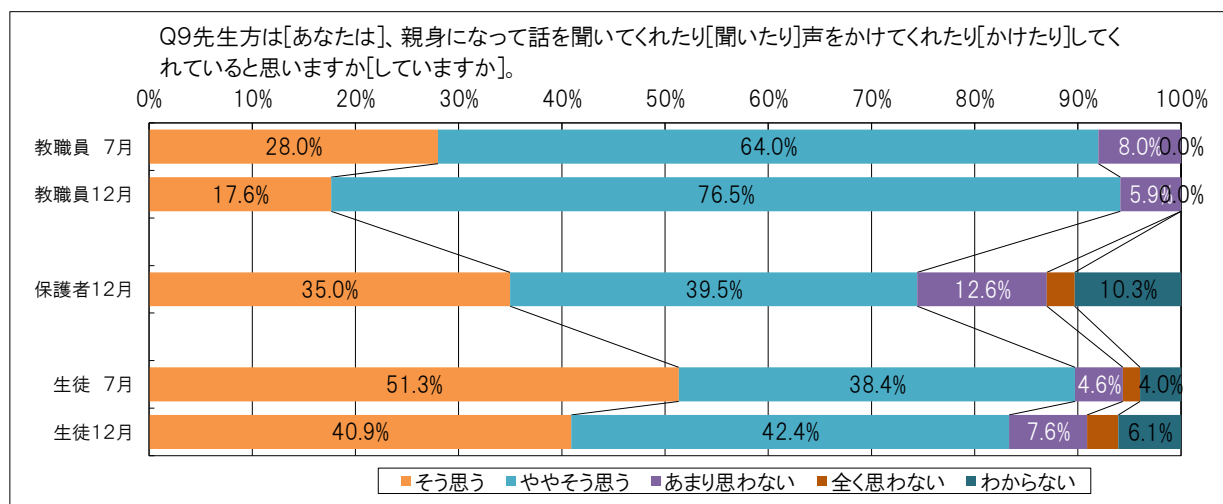
生徒たちの意識にはほぼ変化はありませんが、教師の割合は増加しました。挨拶のできる自分づくりが社会に出たときに大きな差になってきます。また、全教職員が生徒たちの挨拶のモデルになれているか、適宜振り返りをしていきます。未来の自分づくりへの第一歩として、主体的な挨拶のできる雰囲気づくりをしていきます。



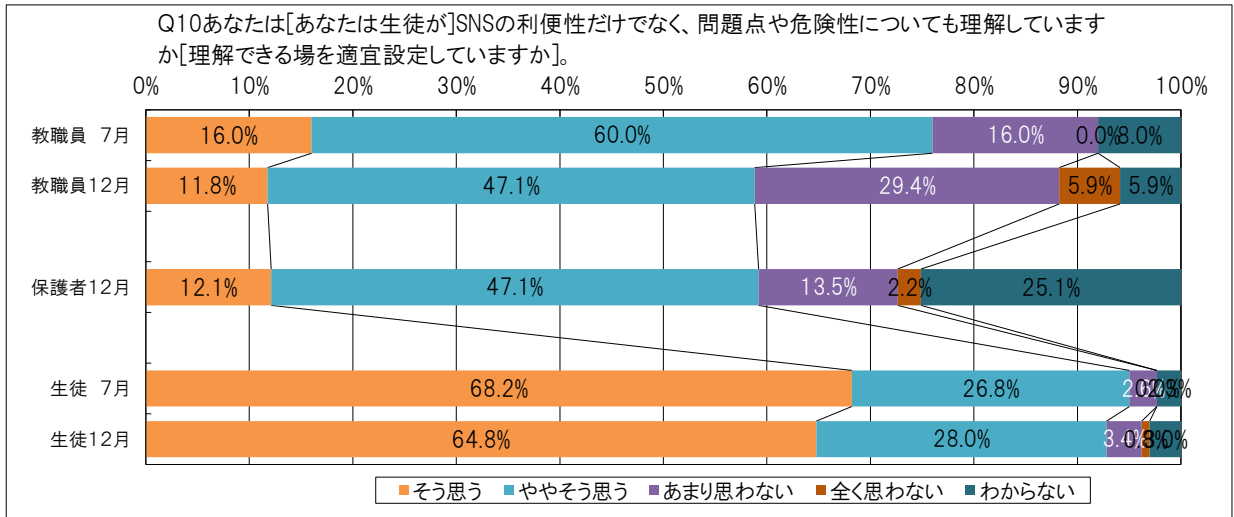
生徒たちは時間を守っている感覚で生活しているようです。教師との格差が大きい原因は、授業開始1分前着席が徹底できてはいない現状からきています。日課の変動が複雑という課題も一因と考えています。来年度は、生徒や教師にとって時間を意識しやすいスケジュールに改善していきます。自分で時間を管理できるように学校全体で意識を高めていきます。



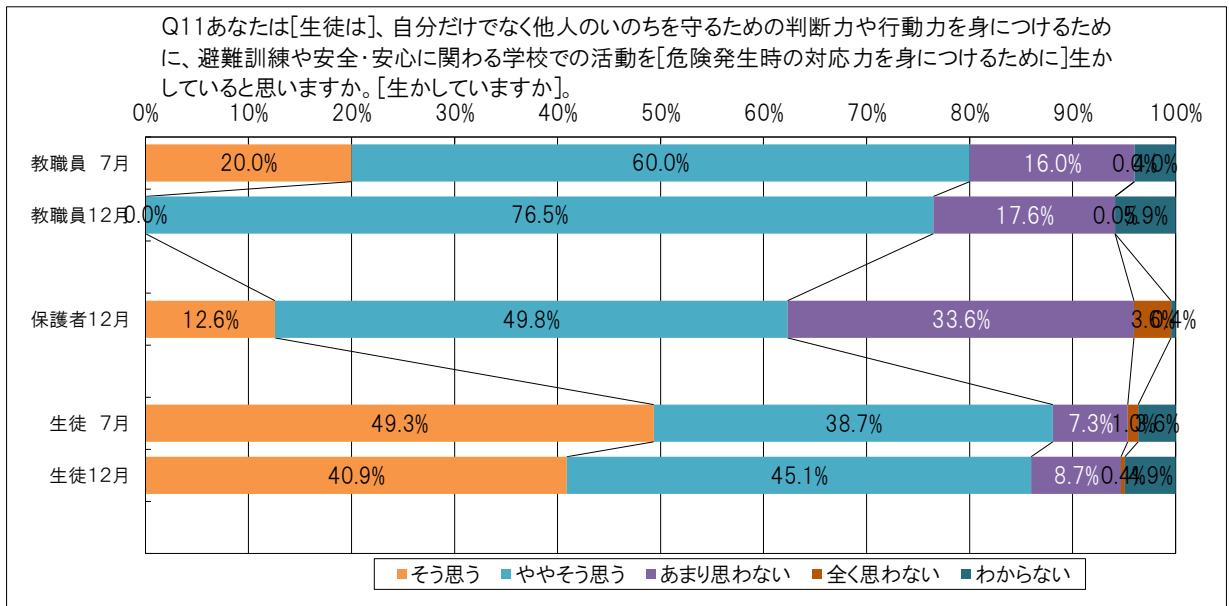
場を清めることは、社会に出てから、重要な生きる力であると考えています。自然にできる生徒は、家庭での声かけも大きく影響していると感じます。逆に整理整頓に苦労している生徒には、教師のサポート、さまざまな方法を試しながら見守っていきます。また、自分の使った場所を短時間で集中して掃除する姿勢を育てていくために、委員会や生徒会などと連携して黙勤の声かけを行っていきます。



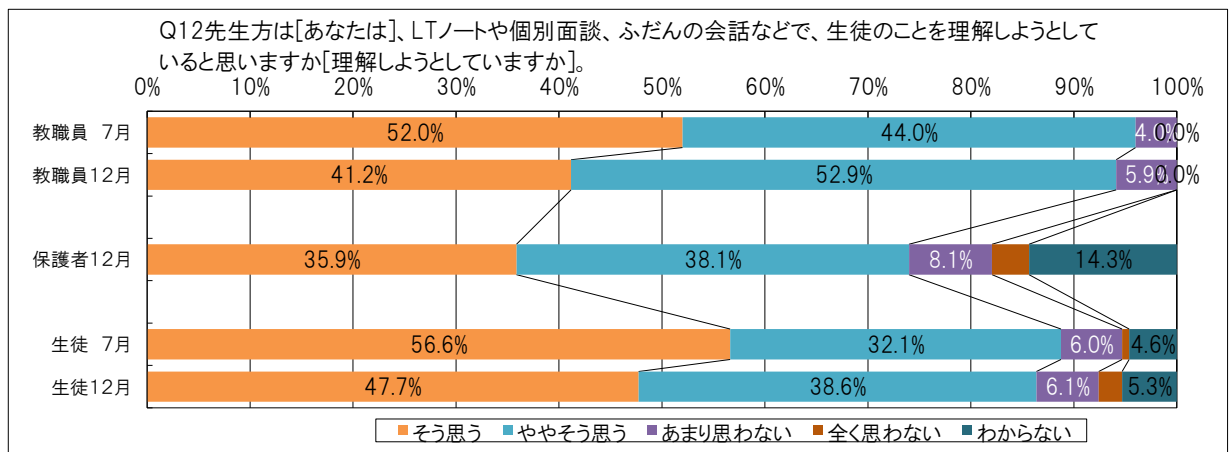
生徒・教師ともに8割以上が話を聞いたと回答しています。一方で2割弱の生徒は不十分であったことを受け止め、改善していく必要があります。日頃からなにげない会話を大切にしていきます。また、担任だけでなく、保健室、部活動、教科担任など、さまざまな立場で生徒の様子をとらえ、温かく声かけを続けていきます。



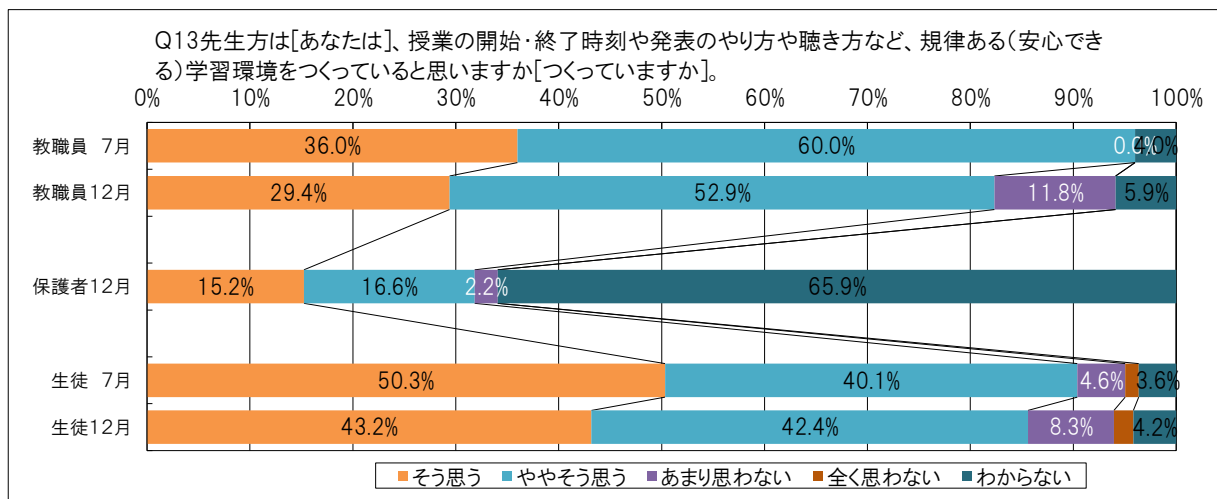
7月の調査と同様で、デジタル端末やネットメディアが身近な世代であるがゆえに、「自分はSNSの危険性を理解している」と考えている生徒が多いようです。使いこなしているからこそ、「自分は大丈夫」とならないように、情報モラル教育に取り組んでまいります。スマホは主に学校外での操作になるため、家庭でも危険なサイトへのフィルターや時間制限のルールなど今一度確認をお願いします。



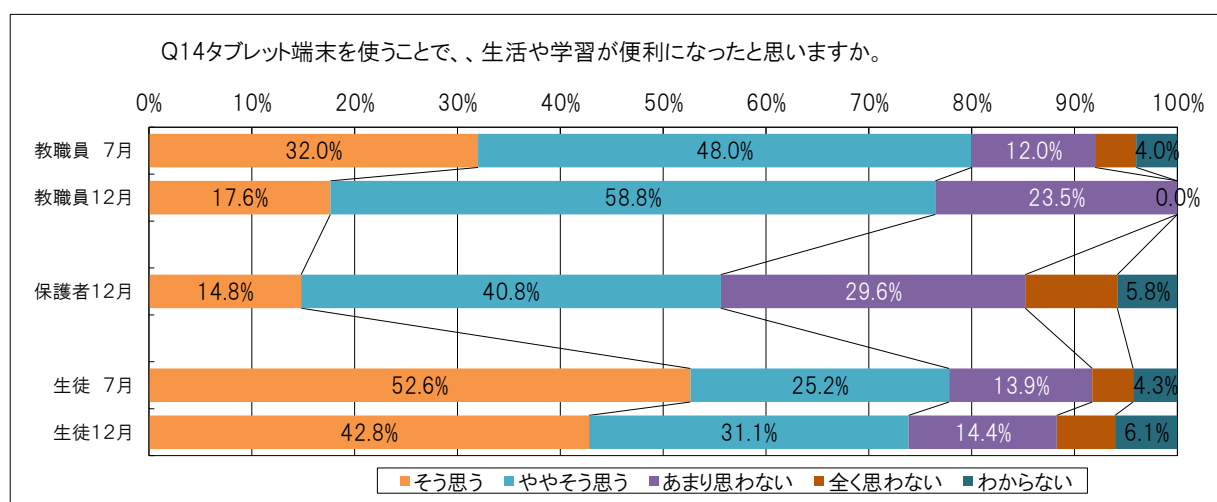
1月に予告なしで避難訓練を行いました。今後も、日常生活に潜むあらゆる危険や事故の可能性について考える機会を設け、よりいっそう危機意識をもてるようにしていきます。中学生は地域社会への貢献も期待されています。機会あるごとに自覚がもてるように働きかけていきます。



生徒、教職員共に、昨年度よりも理解しようとしているという回答が多いです。生徒の方が若干低いのは、教職員は理解しているつもりでも、生徒にとってまだ不十分であることも考えられます。今後も学校のさまざまな立場で連携し、生徒たちの様子をとらえ、対応していきます。



ほとんどの生徒が、落ち着いた環境で学習に取り組んでいると感じています。「生活三つの心づかい」や「学びに向かう三箇条」を今まで以上に意識できるようにして、更に規律ある躍動的な授業を旨とします。



約7割の教員、生徒が便利になったと実感しています。学校では学習道具の一つとしてタブレットを使うことがあたりまえになってきているように感じます。今後は資料のペーパーレス化や、課題等をタブレットで行うなど、ご家庭でも便利になったと実感できるような取り組みが徐々に増えていくように工夫をしていきます。

